

令和2年度第1回白石市総合教育会議 会議録

- 1 招集日時 令和2年9月11日(金) 午後4時
- 2 招集場所 白石市役所 4階 大会議室
- 3 出席委員 白石市長 山田裕一、
教育長 半沢芳典、佐藤敏義 教育委員、佐藤よし美 教育委員
岡崎美弥子 教育委員、小室秀一 教育委員
- 4 事務局出席者
教育委員会事務局
学校管理課 課長 齋勝則、上席参事 高橋大介、課長補佐 相原宏一
課長補佐 佐藤哲生、主幹 後藤順子、主査 櫻井知
- 5 開会時刻 午後4時
- 6 協議事項 今後の幼児教育の在り方について(白石市第一幼稚園の休園措置について)
- 7 閉会時刻 午後4時56分

(午後4時00分開会)

齋課長 定刻になりましたので、ただいまから令和2年度第1回白石市総合教育会議を始めさせていただきます。私は、学校管理課の齋と申します。本日の進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。当会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4に規定されております。地方公共団体の長と教育委員会との協議並びに調整の場という位置づけになっております。また、この会議は物事を決定する場ではなく、意見調整の場でございます。

なお、本日の、会議の時間は概ね1時間ということで予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

齋課長 それでは、開会に当たりまして、山田市長よりご挨拶を申し上げます。

山田市長 皆様こんにちは。総合教育会議開催に当たりまして、主催者として一言ご挨拶を申し上げます。

教育委員の皆様におかれましては、日頃より本市の教育行政について、様々な角度からご意見等をいただくとともに、力強いご支援をいただいておりますこと、心より厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、本日の総合教育会議ですが、先日の教育委員会において、幼稚園の休園問題について一定の結論が出たことからこれまでの経過と、教育委員会としての決定を報告、説明する内容と聞いております。

幼児教育の充実は、本市の将来を担う上で、非常に重要なことでもあります。本日は皆様と活発な意見交換が出来ればと考えております。皆様忌憚のないご意見をお聞かせいただくようお願いいたします。それでは本日の会議どうぞよろしくお願いいたします。

- たします。
- 齋課長 ありがとうございます。続きまして、教育委員会から山田市長に報告をいたします。山田市長前の方にお進み願います。
- 半沢教育長 9月2日の教育委員会定例会におきまして、今後の幼児教育の在り方、白石市第一幼稚園の休園措置について議決いたしましたので、ここに報告いたします。
施設名 白石市第一幼稚園 休園年月日 令和3年3月31日をもって休園をいたします。白石市教育委員会 でございます。
上記議決したことをご報告いたします。
- 山田市長 長期間にわたるご議論ありがとうございました。

議長選出

- 齋課長 それでは会議に入ります。
議長選出ですが「白石市総合教育会議運営要綱」第3条の規定により市長が議長となり、会議の進行をすることになっておりますので、ここからの進行は山田市長にお願いいたします。
- 議長 それでは、議長を務めさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

説 明

- 議長 次に、教育委員会からの「これまでの経過と教育委員会としての決定について」説明をお願いします。
- 半沢教育長 本日は、お忙しいところ総合教育会議を設定いただき、ありがとうございます。先ほど報告いたしました幼稚園の1園休園について、経過及び理由を説明させていただきます。令和元年11月15日、「白石第一幼稚園を残す会」様から「白石市第一幼稚園休園の白紙撤回並びに次年度年少組園児募集の即時再開に関する請願書」が市議会に提出され、12月19日採択されました。
これを受け、令和3年3月31日をもって白石市第一幼稚園休園することについては計画を凍結し、本件を教育委員会としての議決案件として、改めて結論を出すことといたしました。
はじめに、議会での請願書採択後の経過について説明させていただきます。
まず、令和2年1月に、両幼稚園の保護者を対象として、今後の幼児教育の在り方について何う「幼稚園アンケート」を実施いたしました。アンケートの結果概要は、大きく分類すると3点になります
1点目は、休園問題に関する市の対応、市の進め方に対するご意見等をいただきました。
2点目は、要望、提案に関することで、平日の預かり保育の充実や長期休業中の預かり保育を望む声が多く寄せられました。
3点目は、幼稚園の形態に関することで、一園になることはやむを得ないという意見が多くありました。
その後、「本市の幼児教育の在り方について」というテーマで、総合教育会議を令和2年1月から3月まで3回にわたり行いました。会議には、参考人として、保護者の代表や「白石第一幼稚園を残す会」の方、有識者の方などにもご参加いただき、

様々な意見交換が行われました。

3回の総合教育会議での意見を踏まえ、本年4月から定例教育委員会において検討してまいりました。今後のプロセスとして、まず教育委員会としての素案を作成し、素案に対して保護者の皆さまからご意見やご要望を伺うこととしました。それらのご意見等をさらに教育委員会で検討し、本市の幼児教育の充実を図るための最終案を作成することとしました。教育委員会では、本市の幼児教育・子育て環境の課題、状況などの現状分析を総合教育会議で使用した資料を用いながら検討いたしました。その中で、次の3点により、まず、教育委員全員一致で1園を休園するという判断をいたしました。

1点目は、少子化が急激に進んでいるという点です。平成22年度生まれ、現在の小学4年生になりますが254人であった本市の出生者数は徐々に減少し、平成26年度から29年度は200人程度でしたが、平成30年度は171人、令和元年度は135人と大きく減っています。10年間で出生者数が約半数になっています。2点目は、市立幼稚園の在籍数です。両園ともここ10年間、定員の140人には達していない状況です。平成27年度、28年度の在籍率は6割程度でありましたが、平成30年度、令和元年度は5割を切っています。

3点目は、保育園における待機児童の問題です。本年4月1日現在で12名の待機児童がおります。保育士の確保が難しいことも一つの要因だと考えられます。

ここ数年の市立幼稚園在籍者数と急激な少子化を考慮し、公立幼稚園は1園とし、同年代の幼児との関わりや異年齢との関わりを促進させ幼児教育の充実を図るとともに、長期休業中の預かり保育や給食の提供などの保護者のニーズに添えていくのが望ましいとの判断をいたしました。

次に、1園を休園とした場合、どちらの園を休園とするかについてです。総合教育会議では、「第一・第二幼稚園の比較表」などの資料により、建物構造や敷地面積などの基本的事項、東日本大震災時の被害状況や令和元年台風19号時の状況などの災害等防災面、火災・地震の対応や避難場所などの安全管理などについて2園の状況を比較しましたが、大きな違いはみられないという結論に至りました。

教育委員会としては、第二幼稚園が幼児教育として、より望ましい平屋建てであることから、第一幼稚園を休園するという結論に至りました。

休園時期については、長期休業中の預かり保育や給食提供などの要望が多いことから、それらのニーズに少しでも早く対応いたしたく、令和3年3月31日としたところでした。これらは、教育委員全員一致の結論です。

教育委員会としては、第1に「市立幼稚園は、1園とする。」、第2に「第一幼稚園を休園とする。」、そして第3に「休園の期日は令和3年3月31日とする。」を素案とし、これをもって保護者説明会において保護者の皆様からご意見を伺うこととし、7月中に両園の保護者の皆様に3回説明会を行いました。

次に、一園になった場合の幼児教育の充実、保育サービス向上についても検討し、次のような方針を決定いたしました。まず、幼児教育の充実についてです。

幼児期は、人格形成にとって、特に社会性を身に付けるうえで大変重要な時期であります。子どもたちは、生活や遊びといった体験をとおして、情緒的・知的な発達、さらに社会性を養い、人間として、そして社会の一員として、よりよく生きていく

ための基礎を身に付けていきます。そこで、大切なのが、同年代の幼児と集団で生活することや、異年齢の幼児と関わることになります。

近年の本市における少子化と園児数の減少につきましては、さきほど申し上げた通りでございますが、そのような状況の中、1園を休園することによって、同年代の幼児との関わりや異年齢との関わりを促進させることができると考えております。その上での幼児教育の充実の具体について、ご説明いたします。

まず、英語教育の充実を図っていきたいと考えております。昨年度は、各園に年間3時間ALTを配置しておりましたが、ALT1名の追加をお認めいただいたことにより、今年度は両園ともに年間10時間ALTを配置しております。これまでは、ハロウィン等の園の行事に合わせてのALTの活用でしたが、1園が休園となった場合、年間20時間程度の配置が可能となり、より充実した定期的な活用が図れるようになります。具体的には、異文化への慣れ親しみに加えて、ALTや教員、友達とのやりとりなど、英語を通じたコミュニケーションの楽しさを味わう活動を、年間を通じた計画に基づいて実施したいと考えております。

次に、互いに認め合う子供、自分の思いを言葉で表現できる子供を育むために、p4cという、対話を通して互いの考えを深めていく活動を幼児教育にも取り入れていきたいと考えております。本市では平成28年から市内小・中学校においてp4cに取り組んでいますが、これを幼児教育においても取り入れることで、対話を通して互いを認め合える心や、自分の言葉で自分の気持ちや考えを話す力などを育てていきたいと考えております。

さらに、暗唱活動を実施いたします。暗唱活動に取り組むことにより、言葉や文章の音読を通して、語彙や言葉のリズム感などの表現力や思考力の育成を図ってまいりたいと考えております。現在、教育委員会として副読本の作成中でございます。より充実した幼児教育の推進に当たっては、大学等と連携して、専門的な視点からのアドバイス等をいただきながら取り組んでいく予定でございます。

保護者の皆様からの要望につきましては、その都度、実現可能か検討してまいりたいと思っております。

次に保育サービスの向上についてご説明いたします。平日の預かり保育については、現在の保育終了から午後5時までをさらに延長したいと考えております。また、夏休み等、長期休業中の預かり保育についても実施したいと考えております。

さらに、希望者に対し、給食提供を実施いたします。給食は、現在、当市給食センターからの提供を軸に検討しており、副食給食（おかずのみで主食のごはんやパンなし）であれば一食200円程度で対応できる見込みであります。

その他、保護者のニーズを伺いながら、保育サービスの向上に努めてまいります。以上について、7月30日に第一幼稚園の保護者説明会、7月31日に第二幼稚園の保護者説明会にて説明をいたしました。教育委員会の素案に対して特に異論はありませんでした。

この結果を受け、9月2日の定例教育委員会において、第一幼稚園を令和3年3月31日をもって休園する、併せて幼児教育の充実と保育サービスの拡充を図っていくことを全員一致で議決しました。これを受けて、9月3日午後1時から、市議会全員協議会を開催いただき、議員各位に説明させていただいたところであります。

なお、今後の予定としては、9月24日、25日に両園の保護者へ説明会を行います。さらに、第一幼稚園の3歳児、4歳児は、来年度、第二幼稚園に転園することが考えられることから、園児の交流事業を今まで以上に実施してまいります。具体的には、ハロウィンパーティーや昔遊びなどを計画しています。また、保護者の交流についても検討してまいります。

なお、一園になった場合の幼児教育の充実、保育サービス向上については、予算措置が必要となる事業もございますので、市長には特段のご配慮をお願い申し上げます。これからも教育委員会として、幼児教育の充実に一層努め、保護者・市民から選ばれる幼稚園づくりに努力してまいりますので、一層のご理解、ご支援とご協力を願ひ申し上げ、説明を終わります。どうぞよろしくお願ひいたします。

山田市長

ありがとうございました。本年1、2、3月と3回にわたり総合教育会議を開かせていただきまして、教育委員の皆様だけでなく、様々な関係機関の皆様、また保護者の代表の皆様、第一幼稚園を残す会の皆様に出席いただき、様々な角度から本当に多くのご意見を頂戴いたしました。それを踏まえ4月から、定例教育委員会でこれまでの様々なご意見を踏まえた上で、教育委員の皆様には、積極的に深くご議論をいただき本日一つの方向性、今後の本市のさらに充実した幼児教育の佳境を報告いただきました。これまでの皆様の長きにわたるご苦勞に敬意を表したいと思ひます。私としては、今日の資料3ページを見まして、少子化が急激に進んでいるということが本市の市政運営においても非常に大きな課題です。私が就任したのは平成28年11月14日からです。平成29年の出生数は200人でした。たった2年で135人、約30%が激減しているこの状況が非常に大きな課題です。今後の白石市を担ってくれる子ども達、そして我が国を支えていかななくてはならない子ども達の教育環境の充実は、何としても私は果たしていかななくてはならない大きな課題だと思っております。加えまして、昨年10月の消費増税以降、幼児教育・保育の無償化がスタートし、より保護者の皆様から選ばれる幼児教育の環境が非常に重要だと考えております。当然教育委員の皆様もそういった視点から今回、様々な角度からご議論いただいたものだと思っております。今後子ども達がたくましく、力強く成長していく上で、周りの多世代の子ども達との交流を図っていく、また障害の有無に係わらず、社会を担う一員として周りの友達と協力して何かを作り上げていくといった環境も重要ではないかと考えております。

教育長から資料の説明がありましたが、ぜひ教育委員の皆様とも様々な意見交換をさせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

佐藤（敏）委員

教育委員会の流れは教育長から報告したとおりでございます。私も市長と同じく資料3ページの出生数が昨年の135人には、驚きました。私たち教育委員は定期的に市内の施設を訪問しております。大鷹沢小学校では私がPTA会長であった時は、100人くらいでした。当時は250人まで想定していました。また50人前半くらいで底をつくだろうという予想もしていました。この前校長先生に聞いたところ来年は42人です。これは大鷹沢小だけの問題ではありません。教育委員会としては近い将来、小学校・中学校の学校の在り方、幼稚園も含めてそういう議論を視察も含めてどういう形態の学校であるべきかを、教育委員全員で議論してまいりました。そういった中で昨年の135人という数字は市長同様驚異的な数字だと感じ

ました。

山田市長

ありがとうございました。これまで私も、三つ子の魂百まで、ということを経験や祖父母から聞かされてきました。それだけ幼児教育、子ども達の環境が非常に重要だと思っております。今、様々な家族の在り方、複雑な家庭環境で育つ子ども達がいることも事実です。また、所得が低く困難な生活を余儀なくされている方もいらっしゃる中で、そういう環境で育つ子ども達をどのように守っていくのが、行政としても非常に重要な課題だと感じております。その中で今回出された結論は、非常に重く受け止めております。なんとか子ども達の幸せを願い、そして保護者の皆様のご要望、ニーズ、こういう幼児教育の環境を作ってほしいという声に答えていかなくてはならないという思いでございます。教育委員の皆様から重ねてご意見ございませんか。

小室委員

昨年度白石市は、教育改革元年ということで取り組んでおります。その方向に私も賛成です。昔、トヨタ自動車が大衡村に移転する際、トヨタの従業員の方々から私が勤めていた職場に、色々な質問がありました。「宮城県に住むことになるが、子どもの教育に力を入れている市町村はどこか」と。簡単に言えば、東北大学等の大学進学率がいい高校はどこか、その高校に卒業生がたくさん入っている中学校はどこか。そういったことを具体的に教えてほしいということでした。どこに住むかは、子どもの教育を第一に考えて決めるような時代になってきているのだなと思えました。そして今年の1月3日に昔の白石での教え子の同級会がありました。子育て世代ですが、私と同じテーブルに座った約10人の教え子のうち、独身者が半数、子どもがいる方が半数いました。子どもがいる方は白石には住んでいませんでした。そのうち一人は、職場は白石です。なぜ白石に住まないのかと聞くと、保育所等に預けるのに延長して預かってもらえないとかでした。その教え子も、子どもの教育を考えて、住む場所を白石ではなくしたということでした。そんな経験から、私はこれから白石市は、教育を目玉にして市民の数を増やしていくということが大切ではないかと思っています。そのためには幼稚園も含めて、小学校、中学校、一貫した方針の基に教育を行い、その果実を大きくしていくことが必要ではないかと思えます。7ページにあります、一園にした場合の幼児教育の充実案の、英語教育の充実や、p4cを導入した教育、暗唱読本を活用した活動等は幼稚園のみならず、小学校、中学校でも取り組んでいるところです。統一性ができて、こういうことが実現できれば、こういう幼稚園があるなら白石で子育てをしたいと思う若者が増えてくるのではないかと、ぜひこのことを実現していきたいと思っています。

山田市長

ありがとうございます。昨年教育改革元年という旗印を掲げました。目的は、子ども達が将来の夢や希望を叶えられる力を付けてあげたい。子ども達一人一人が自分の夢や希望に向かって頑張れる力を付けてほしいという想いがあり、一つの手法ですが、埼玉方式の学力テストを取り入れました。子ども達にとって大事なものは、成功体験だと思っています。今年度から英検の半額補助も回数制限なくさせていただいたのは、合格する喜び、だめだとしても次頑張ろうと思う気持ちが重要だと思えます。合格しても一つ上の難しい試験にチャレンジしようという向上心、前向きに頑張るといふ環境が非常に重要だと思います。背景としては、小学3年生から新学習指導要領の中で英語教育が必修課されるということから、異文化に触れること

により、我が国の良さ、日本のすばらしさを気づいてほしいという想いからスタートしたところでございます。私は、行き着く先は郷土愛、白石のことを大切に思うことを根付かせることが重要だと思います。一園にした場合の幼児教育の充実として今回4つを挙げていただきました。小中学校においてp4cを導入しているのは全国でも本市だけでございます。さらに暗唱読本を活用することも非常に重要だと思います。私も小学校の頃先生方に、口が酸っぱくなるほど指導いただき暗唱したことが今も口から出てきます。ですので、これは非常に重要だと思っております。幼児教育のことについて保護者の皆さんからお話を聞きまして、今はニーズの変化が非常にあって、一人だけ働いていればいいという家庭は少なく、お母さんも働いて生活を支えている家庭も非常に多いかと思えます。その中で延長保育や、給食の提供、長期休暇中の利用という、保育園要素も兼ねた幼稚園という希望が多く聞かれました。今、幼保無償化でどこに通園しても金額的に変わらない中で、p4c等の充実、また、現場の先生がスポーツに力を入れたい等あればそれらに力を入れて子どもの確保、選んでいただくように、一園にしてスタッフの集約と内容の充実を図るのはいいと思っていました。p4cは私の娘も小、中と子どもの哲学というところでやらせてもらいました。ハワイ大学の先生とお話をさせてもらう機会もあり、みんなの話をよく聞く、待つ、発言をするということは勉強になりました。早めに幼稚園のうちからそういう教育を受けることは、白石の教育のためにはいいなと思っております。

岡崎委員

山田市長

ありがとうございます。私もこれまでp4cの公開授業を見させていただき、みんながルールを守って進めていき、自分と違う考えを持っている友だちの考えを尊重することが非常に重要だと考えています。人それぞれ考え方、価値観も違います。自分と考え方が違う人が、間違っていておかしいということではなく、多様な考え方がある中で、みんなと協力して何かを作り上げていくことが非常に重要になってくると思えます。そういう環境を幼稚園の頃から、幼児教育の環境でもp4cを取り入れることによって他人との違い、他人との協力を子ども達が育んでいければ、すばらしい子ども達の育成に繋がっていくのではないかと思います。確かに今、お母さん方も仕事をされている方が多い中で、子ども達を安心して預けられる環境が非常に重要だと思っております。来年度には、民間の認定子ども園の動きがあるようです。その中で選ばれる市立幼稚園というものは非常に重要だと思っております。

佐藤（よ）委員

私も今回このような形で、総合教育会議を3回、保護者の方のご意見を聞くことができ、またアンケートでは細かいいろんなことを聞くことができ、自分が気づかなかったことを再発見させていただきました。自分の経験の中で考えると、私も少人数の学校に勤めたり、分校に勤めたりしていたので、少人数の教育の良さはもちろんあります。大勢の中に行った時、教師や保護者はちゃんと適応できるかと心配していますが、子ども達は伸び伸びと大勢の子ども達と関わることを楽しみ、今まで知らなかったことに触れながら、すごく成長する姿を見せていただき、こちらの心配も消えました。それを考えると今回、コロナの関係もあり、少人数も考えることもありましたが、そこは色々な配慮ができるかなと思いました。大勢の人数との関わりを小さいうちから学ぶことは大事なことでないかと思います。決まりやルールに関わりながら進んでいけるかなと思えます。今回保護者からのご意見や、弁

護士の方、障害のある子をもつ保護者の方のご意見を聞くことができました。より良い教育とはどのようにしたらよいのか、それらを参考にしながら、ご意見をまとめたものを教育委員会で提案していただくということを、繰り返すことができました。そして今回の充実案というものができ、より保護者の方にサービスができるのかなと思い、いい話し合いの経過を辿らせていただいたかなと思っております。今後も良い幼児教育ができればいいなと思っております。

山田市長

ありがとうございます。私も1月から3回の総合教育会議の中で、保護者の方の生の声を聞くことができ、非常に勉強になり、多くのことを学ばせていただきました。実際子育てをしている方の不安や、障害をお持ちのご家庭での不安を聞かせていただき、市立幼稚園だからできる充実した幼児教育環境を何とか作り出していきたいという想いにならせていただきました。先ほど、よし美委員からお話が出た、少人数教育のすばらしさは私もあると思います。その一方で多くの子ども達の中で揉まれ、たくましく成長する部分もあります。小学校の入学式に毎年出席させていただき、いつもすごいなあと思うことがあります。小学校2年生の子どもさんが鍵盤ハーモニカで子犬のマーチを演奏して、1年生を暖かく迎える姿を見たときに、一年前は手を繋ぎようやく歩いてくる子ども達が、たった一年間の教育の中で、たくましく成長して、みんなで合奏ができ後輩達をお迎えできるたくましさを見たときに、教育のすごさを子ども達の様子からかいま見ることができます。今後重要なことは、保護者の皆様が、あの時一園にして良かったと思っていただけるような、幼児教育の環境をしっかりと整備していくことが非常に重要だと思っています。実際通っている子ども達が楽しい、幼稚園に行くのが待ち遠しい、そういった幼稚園、当然子どもを預ける保護者の皆さんが本当に一園になって良かったと思ってもらえるような環境を作る上で必要な予算措置は、行政当局でしっかりとさせていただきたいと思います。ぜひ教育委員の皆様には、これからも子ども達の視点に立った、また保護者の視点に立った様々な教育環境の充実について、ご提案を賜りたいと思います。様々な角度からご意見、市政に対して叱咤激励を賜りたいと思います。

半沢教育長

幼児教育の無償化の無料の部分だけを国は言っていますが、実際は幼児教育の充実も併せて言っています。なぜ幼児教育が重要かということ、埼玉県との共同の学力調査の結果から、埼玉は今年5年目ですが、色々なことが分かってきております。取り分け、非認知能力は小学4年生くらいまでに一定程度決まってしまうということが分かってきました。行政や学校が何をすべきかということ、できるだけ低年齢のうちに、学習が楽しいという習慣や、社会性の部分をどういう風に幼児期から育むかが非常に重要です。文部科学省総合教育政策局調査企画課学力調査室専門官の大根田氏は極論を言えば、学力向上に何が一番効果的か、非認知能力を高めることだとはっきり言っています。勉強はもちろん大事ですが、そういう観点から申しますと、同年齢及び異年齢の子ども達が一定程度いる中で、もまれていく、もちろん嫌な体験、辛い体験もするだろうけれども、その中で、どう心などを育てていくのかが極めて重要だと思っています。できる限り教育委員会としても、幼児教育の充実に関してもこれからは務めていければなと思っております。今回私も沢山のことを学ばせていただきました。

山田市長

教育長が話された中で、私も辛い体験、苦しい体験は重要だと思っています。多

くの人が集まれば、うまくいかず衝突したりすることも多くなってくると思います。ただ私が大事だと思うのは、仲直りする力が重要だと思っております。意見が合わず、けんかすることは誰にでもあります。けんかした後はどうやって仲直りするか、その仕方が子どもの頃から身につくことができれば、社会人になった時の社会の中での、人間関係がよりスムーズにいくようになるのではないかと思います。大人になっても皆さん悩まれるのは人間関係だと聞きます。その中で、様々な苦難や困難にぶち当たった時、それを乗り越えていくのは自分自身の力だけでなく、多くの周りの皆さんの励まし、協力があり乗り越えられるところも多くなってきました。心をたくましく育む上での幼児教育は、非常に重要だと思っております。言葉は悪くなりますが、私は沢山けんかをして沢山仲直りしてほしいなど、子ども達には思っています。経験に勝るものはないというふうに思っていますので、様々な経験から子ども達が大きく、大きく成長してほしいなど心から願っています。また、非認知能力は小学4年生までに決まってしまうという研究の結果が出ているというお話でした。幼児教育の果たす役割、市立幼稚園だからこそできる環境をこれからはしっかりと私も作り上げていきたいと思っております。その面では、教育委員の皆様様の様々な角度からのご意見、ご提言が非常に重要になってまいります。今後とも皆様とのご議論を深めながら、こういった総合教育会議等を通して、本市の更なる幼児教育、学校教育そして生涯教育の充実を果たしていきたい、作り上げていきたいと考えております。引き続き忌憚のないご意見を賜りますように、どうぞよろしくお願いいたします。その他、意見等も無いようですので、本日の会議はこのあたりで終了させていただきます。これから、教育委員会として、保護者への説明をしっかりと行い、新年度スムーズにスタートができるよう、しっかりと事務も進めていきたいと思っております。これで議長の任は解かせていただきます。本日はありがとうございました。

齋課長

山田市長ありがとうございました。それでは、閉会にあたりまして、半沢教育長からあいさつを申し上げます。

半沢教育長

本日はご多用のところ市長にはお時間を取っていただき、総合教育会議を開催していただきましたこと御礼を申し上げます。ありがとうございました。併せて委員の皆様にも予定を調整していただき、出席いただいたことにも心より感謝申し上げます。ありがとうございました。本日は冒頭で話があったとおり、本市の幼児教育の在り方について市長との協議、意見交換をする場でございました。私の印象では市長にも本教育委員会の決定したこと、議決したことをご理解いただいたと思っております。よろしいでしょうか。

山田市長

はい。

半沢教育長

市長にもご理解いただきました。今後は24、25日に幼稚園の保護者の皆さんに再度、ご説明を申し上げて、疑問等については、できるだけ丁寧に対応してまいります。今後も先ほど市長が話していただいた、一園にして本当に良かったと、充実したということを保護者の皆さんや園児の皆さんに言ってもらえるような幼稚園を目指して、今後も取り組んでまいりたいと思っております。市長には今後も予算面、人事面等、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。閉会の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。